

第3章

同志国などとの連携

安全保障・防衛分野における国際協力の必要性がかつてなく高まるなか、防衛省・自衛隊としても、わが国の安全および地域の平和と安定、さらには国際社会全体の平和と安定、繁栄の確保に積極的に寄与していく必要がある。

国家防衛戦略における第一の目標は、同盟国・同志国などと連携し、力による一方的な現状変更を許容しない安全保障環境を創出していくことである。このため、同盟国のみならず、一か国でも多くの国々と連携を強化することが極めて重要であるとの観点から、自由で開かれたインド太平洋（FOIP）の実現に資する取組を進めていくこととしている。

Free and Open Indo-Pacific

また、力による一方的な現状変更やその試みに対抗し、わが国の安全保障環境を確保するためには、同盟国・同志国と協力・連携を深めていくことが不可欠である。

さらに、グローバルな安全保障上の課題などに関しては、海洋における航行・上空飛行の自由や安全の確保、宇宙領域やサイバー領域の利用にかかる関係国との連携・協力、国際平和協力活動、海洋安全保障や気候変動に関する協力、軍備管理・軍縮、大量破壊兵器の不拡散などの取組をより積極的に推進することとしている。

こうした取組の実施にあたっては、日米同盟を重要な基軸と位置づけつつ、地域の特性や各国の事情を考慮したうえで、多角的・多層的な防衛協力・交流を積極的に推進していく。その際、同志国などとの連携強化を効果的に進める観点から、**円滑化協定（RAA）**、**物品役務相互**

Reciprocal Access Agreement

提供協定（ACSA）、**防衛装備品・技術移転協定**などの制度的枠組みの整備をさらに推進していくとしている。

参照 図表Ⅲ-3-1-1（自由で開かれたインド太平洋（FOIP）における防衛省の取組（イメージ））



KEY WORD

円滑化協定（RAA）

一方の国の部隊が他方の国を訪問して協力活動を行う際の手続や同部隊の地位などを定めることにより、共同訓練や災害救助などの両国部隊間の協力活動の実施を円滑化するもの。
2026年4月現在、オーストラリア、英国およびフィリピンとの間で締結されている。



KEY WORD

物品役務相互提供協定（ACSA）

共同訓練、国連PKO、人道的な国際救援活動、大規模災害対応活動などのために必要な物品または役務の相互の提供に関する基本的な条件を以下の締約国との間に定めるもの。
2026年4月現在、米国、オーストラリア、英国、カナダ、フランス、インド、ドイツ、イタリアとの間で締結され、オランダ、ニュージーランド、フィリピンとの間で署名されている。



KEY WORD

防衛装備品・技術移転協定

締約国間の防衛装備品および技術の移転などに関する一般的な法的枠組みを設定する国際約束。具体的には、個別の移転について決定・確認する手続きを定めるとともに、移転される防衛装備品や技術の適正な使用・管理などを義務付けるもの。
2026年4月現在、米国、英国、オーストラリア、インド、フィリピン、フランス、ドイツ、マレーシア、イタリア、インドネシア、ベトナム、タイ、スウェーデン、シンガポール、アラブ首長国連邦（UAE）、モンゴルおよびバングラデシュとの間で締結され、カナダとの間で署名されている。（※米国とは対米武器・武器技術供与取極、英国とは日英武器・武器技術移転協定を締結）。



資料：多角的・多層的な安全保障協力

URL：<https://www.mod.go.jp/j/approach/exchange/index.html>



動画：自由で開かれたインド太平洋（FOIP） 防衛省の取組

URL：https://youtu.be/q_RHctUc0I



資料：自由で開かれたインド太平洋（FOIP）のための新たなプラン【外務省HP】

URL：https://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/pp/page3_003666.html

自由で開かれたインド太平洋(FOIP)における 防衛省の取組(イメージ)

経緯

- 2016年8月、安倍内閣総理大臣(当時)はケニアで開催された第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)の基調演説において、「自由で開かれたインド太平洋」(Free and Open Indo-Pacific)の考え方を提唱
Tokyo International Conference on African Development
- 自由で開かれたインド太平洋を介してアジアとアフリカの「連結性」を向上させ、**地域全体の安定と繁栄を促進**することを目指す。
- 2023年3月、岸田内閣総理大臣(当時)は、インドで開催されたインド世界問題評議会(ICWA)の政策スピーチで、「FOIPのための新たなプラン」を発表
Indian Council of World Affairs
- 2026年5月、高市内閣総理大臣は、ベトナム・ハノイで外交政策スピーチを行い、進化した「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」を発表

「自由で開かれたインド太平洋」の基本的な考え方

- インド太平洋地域は、世界人口の半数を擁する**世界の活力の中核**であり、この地域の**安定的で自律的な発展を実現**することは、**世界の安定と繁栄にとって不可欠**
- 「自由で開かれたインド太平洋」は、インド太平洋地域全体に広がる**自由で活発な経済社会活動を促進し、地域全体の繁栄を実現することを目指すもの**

進化した「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」の重点分野

- ① エネルギー・重要物資のサプライチェーン強靱化を含むAI・データ時代の経済エコシステムの構築
- ② 官民一体での経済フロンティアの共創とルールの共有
- ③ 地域の平和と安定のための安全保障分野での連携拡充

✓ 「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」の実現に向け、政府一体となって取り組んでいく方針

インド太平洋地域の特徴

- **わが国の主要なシーレーンが通過し、世界人口の多くが集中**。また、**経済成長も著しい**ことを踏まれば、この地域の安定はわが国の安全と繁栄のために極めて重要
- 一方で、地域内では軍事力の急速な近代化や軍事活動の活発化がみられるなど、**地域の安定にはさまざまな課題が存在**
- また、地域内では、こうした急速な環境の変化に対応すべく**各国が取組を実施**

防衛省における取組の方向性

- 防衛協力・交流を活用し、**主要シーレーンの安定した利用を確保**
- 信頼醸成や相互理解を進め、**不測の事態を回避**
- 関係各国と協力し、**地域の平和と安定に貢献**

✓ インド太平洋地域は安全保障上多くの課題が存在
✓ 防衛協力・交流を活用し、わが国にとって望ましい安全保障環境を創出



※地図などについてはイメージ

- 防衛省・自衛隊としては、重要なシーレーンが通過する**東南アジア、南アジア、太平洋島嶼国**に加え、エネルギー安全保障上重要な**中東やアフリカ、中南米**といったインド太平洋の各地域との間で、防衛協力・交流を強化
- 推進にあたっては、**米国、オーストラリア、インドおよび英国、フランス、ドイツ、イタリアなどの欧州諸国や、カナダ、ニュージーランド**といった、FOIPの考え方を共有し、インド太平洋地域につながりを有する国々との間で積極的に協働

✓ FOIPは包摂的なものであり、この考えに賛同するのであれば、いずれの国とも協力可能